

# JUNGIDO

## 滋賀県立膳所高等学校同窓会報

遵義堂

発行人/浅田幸作  
発行所/滋賀県立膳所高等学校同窓会  
大津市膳所 2-11-1  
TEL077-524-4295・FAX077-524-1732  
発行日/平成23年4月15日  
編集人/広報部会・山田 勲  
印刷/株式会社 サンエムカラー

URL: http://www.dosokai.ne.jp/ ezekaukou  
E-mail: zeze-h-dousokai@poem.oc.n.ne.jp



# VOL.28

『遵義の桜、さらなる開花』

# 1898 = 高 = 2011

### CONTENTS

巻頭エッセー	1
平成23年度総会のお知らせ	1
本物の教育に出会う	2
「教育の日講演会」のご報告	2
校訓について	2
岡田先生を偲んで	2
校歌の変遷(二)	3
吹奏楽班 OB 会合同演奏会報告	3
石鹿文庫	3
同窓会事業のご案内	3
周年記念同窓会報告	4・5・6・7
周年記念同窓会予告	7
世界空手選手権女子団体優勝	7
膳所高 NEWS	8
会費納入について・会計報告・総会提出議案	別紙

### 巻頭エッセー

## ボートマン時代の回顧

昭和18年卒業膳中41回  
前同窓会常任理事長 飯田 勝一



古い話で恐縮ですが、戦時下の昭和16年から18年まで漕艇部員として、数々のレースに参加した。当時、使用した公式艇は、現在は全く見ることのない固定席艇(フィックスと称した)で、漕手6名と舵手1名のクルーであった。その後、固定席艇は姿を消し、現在のシエル艇へと変遷した。

漕手6名と舵手1名のクルーであった。その後、固定席艇は姿を消し、現在のシエル艇へと変遷した。

練習は厳しかったが、クルー全員が完全に一体感を持って練習に励んだ。炎天下の湖上で、しかも1時間以上も無休で連続して漕ぎ続ける「ロング」と称する練習はきつかった。そのような練習の成果であろうか、滋賀県内はもとより関西全域でもトップクラスの強さを持続することができた。特に、スタートにおけるわれわれの漕法は、力学的な裏付けのある方法を独創的に編み出して、スタート&スパートの段階から他校を圧倒した。

現在の国体に相当する「明治神宮大会」(ボートマンあこがれの戸田コースで開催)にも出場したが、不運にもスタート直後にクラッチ(オールを保持する器具)が1力所破損して敗退した。不可抗力ではあったが、今でも残念でならない。他のレースでは負けた記憶はなく、文字どおり連戦連勝であった。

当時は、浜大津から石山寺まで定期の蒸気船が太湖汽船(現在の琵琶湖汽船の前身)で運行されていた。われわれも殆ど毎日のように練習に出るので、その蒸気船の

### 新入会員

## 「仲間」と絆

平成23年3月卒業 中島 達也



膳所高校を卒業して感じることは色々ありますが、最も強く思うことは、やはり同じ校舎で三年間を共にした「仲間」の存在です。というのも、膳所高校の一番の特徴は、この「仲間」にあると私は感じているからです。

私にとっての三年間は、この「仲間」との関係があった初めて成り立つ三年間であったように思うからです。毎日の学習、班活動、湖風祭といった学校での活動や受験勉強の中で得られたモノ、それは結果はどうであれ共に協力し、励ましあい、笑顔を共有した「仲間」との絆でした。この絆は、時にはこじれ、時には混乱を生む原因となることもありましたが、それを乗り越える度にこの絆はよ

船長やボイラー焚きの機関員と顔馴染みになっていた。並行して漕いでいると機関員から「オーイ、膳中のボン、一発やるか」と声がかかる。つまりは競争しようとの宣言である。OKするとボイラーへ石炭を投げ込む姿が見え、煙突から黒煙がモクモクと立ち昇るといったのかな風景もあった。

もう一つの思い出は、フィックス艇による「琵琶湖航」である。私どもは昭和16年9月に実施した。

前年の15年4月には旧制第四高等学校(金沢)の漕艇部が琵琶湖航の途上、大溝から竹生島への湖上で強風と高波のためフィックス艇が転覆し、OBを含む11名が遭難するという重大事故が発生した。このため各校とも周航を見合すところが多かったが、我々は遭難現場での慰霊を兼ねて決行した。1日目は膳所の艇庫から湖北の今津まで、2日目は今津から竹生島を経由して長浜まで、3日目は長浜から膳所の艇庫までの計画どおり、2泊3日の全コースを事故もなく順調に運行することができた。一番注意を要する気象情報は各泊地で漁師さんから入手したし、四高の遭難現場では花輪を湖上に浮かべご冥福を祈った。3日目の長浜へ膳所は、この季節は強い北東の風が吹くので、テントやオールなどを帆代りにした。強い順風のおかげで漕手は全員お昼寝、COX(舵手)だけが方向保持のため目を開けているといった状況で夕刻に無事艇庫に帰着した。若きボートマン時代の懐かしい思い出である。(完)

り一層強固なものになり、私を以前より一回りも二回りも大きく、力強くしてくれたように思います。中でも、湖風祭や班の大会で感じた絆は、私の中で色あせることなく鮮やかに彩られています。ある一つの目標に向かって、自分と仲間が共に積み上げてゆく過程で、仲間との「絆」が目に見えてそこに鮮明に感じることができ、同時に仲間の中にいて初めて存在できる自分を感じることができました。また、この仲間と共に得た感動はこれからの人生の糧として、私にとっての拠り所となり自信となることと思います。

私達は卒業後、それぞれ自分の選んだ道へ進んでゆきます。そこでは新たな困難や壁に直面することもあるでしょう。そのようなとき、膳所高校で出会った「仲間」たちの顔を思い浮かべ、彼らとの「絆」を力として乗り切りたいと思います。

「良友」ここに盟ひては  
久遠の理想失はじ...

## 本年度の総会は5月15日(日) 平成23年度 総会のお知らせ

滋賀県立膳所高等学校同窓会 平成23年度定例総会を左記の要領により開催いたします。  
平成22年11月2日に久々に関東膳所高校同窓会が開催され266名の方々が集われました。二十歳の成人同窓会も定着してきました。  
本年度の総会に同窓会員の皆様方多数のご出席をお願い申し上げます。

### 平成二十三年定例総会

- 日時 平成23年5月15日(日) 午前10時開会(午前9時30分 受付開始)
- 場所 琵琶湖ホテル 瑠璃の間(3階)  
大津市浜町2-40  
電話 077(524) 1511

- 感謝状贈呈 本校教職10年勤務者
- 議事 一、平成22年度会務報告・部会報告
- 一、平成22年度会計報告・会計監査報告
- 一、役員改正について
- 一、平成23年度事業計画案
- 一、平成23年度予算案
- 一、その他

- 講演 「まちづくりから見る日本の今とこれから」  
講師 山仲 善彰 氏  
(膳所高17回 昭和44年卒業)  
野洲市長

- 懇親会 懇親会にご出席の方は、当日受付にて会費六〇〇円をいただきます。  
出席のお返事は同封のハガキでお願いします。  
欠席の方及び異動のない方はご返信は不要です。

### 講師のプロフィール



昭和44年膳所高等学校卒業  
同志社大学法学部卒業 昭和52年滋賀県庁入庁 平成18年滋賀県知事公室長  
平成19年滋賀県琵琶湖環境部長 平成20年7月滋賀県理事・滋賀県庁退職  
平成20年10月野洲市長就任

### 講演の主旨

まちづくりの方針  
野洲の力を活かして、のびのび自由で、わくわく楽しく、しっかりと安全・安心の街づくりを、行政の徹底した透明性のもとに進めます。  
また、平成22年4月から、「財政健全化集中改革プラン」を実施し、予算の経費削減だけでなく、市民に質の高いサービスを効率的に提供するという観点と、健全かつ安定的な都市経営を可能にするという二つの観点から改革を進めています。この中には、市営コミュニティバスの運行、学校耐震化と空調設備100%、合併後の課題であった庁舎の統廃合、保育園の待機児童解消、学童保育所併増、特別支援教育の充実、景観制度の創設などがあります。



# 本物の教育に出会う

前校長 河原 恵



膳所高校に4年間勤めさせていただき、定年退職を迎えました。今思うのは、膳所高校に赴任することがなかったらば、本物の教育に出会えなかったのではないかとこのことです。

膳所高校の教育には4つのすばらしい点があります。1つは、「高い志」です。生徒たちは常に高い目標を掲げ、どんな困難に遭遇しても逃げない。そういう心意気があります。2つには、「結束力」です。互いに人格を認め合い、信頼し合って切磋琢磨する。そこに強い繋がりを感じます。3つ目は、「主体性」です。自分のやりたいことをやる。どんな困難に出会っても信念を貫き、それを乗り越えようとする勇気を感じます。4つ目は、「基礎・基本の徹底」です。目標を達成するには力がなければなりません。考える力や判断する力、発信する力などです。しかし、その力を身につけるためにはベースとなる基礎的知識を身につけてはなりません。最も単純な営みである基礎・基本に時間を割くことができるのが膳所高校です。そういうところに本物の底力を感じます。

この4つの力は、本校の歴史が生み出したものです。

# 平成22年度「教育の日講演会」の御報告

教頭 辻 雅代

昨年11月2日に「教育の日講演会」を実施しました。11月1日の「滋賀教育の日」にちなんで名付けたこの講演会に、今年度は本校卒業生で、駿台予備学校化学科講師をしてられる石川正明先生をお招きしました。化学の本質を追求する高度な授業を行いながら最高にわかりやすい授業、と受験生に人気の高い先生に、生徒達の学習意欲を喚起する講演をとお願ひしたところ、「夢と現実―未来に飛躍できる力とは」と題してご講演をいただくこととなりました。

「閉塞した、夢の抱けない時代」という暗いイメージが先行している現代だからこそ、自分を見つめ、生きることの本質を考える必要がある。夢と目標を持つことが大切であり、それを表現することによって、ものが動くことができる、と力強く訴えてくださいました。「人生一回性」「未来はゲットするのではなく、クリエイトするのだ」などの言葉に生徒は心を揺さぶられた様子でした。

また、大学紛争華やかなりし頃に高校・大学時代を送られたご自分の体験をもとに、学ぶということの中にいかに感動があるかを切々と語ってくださいました。



旧制膳所中学校の校訓「至誠遵義」「自主力行」が示す精神は、この4つの力とまさに符合します。この流れの中に生まれたのが「遵義力行」です。「至誠」を内包した「遵義」と、「自主」を内包した「力行」。これを統一したものが「遵義力行」です。まさに、旧制中学の校訓「至誠遵義」「自主力行」の精神を受け継いだものといえると思います。

この校訓の精神は、校歌の中にも脈々と流れていきます。2番の歌詞の「遵義の桜咲く庭に いざや鍛えむわが力」は、まさに「遵義力行」を表しています。1番の歌詞の「混濁の湖 日に映えて」は、深く広やかな心と高くそびえ立つ意志の力を感じさせてくれます。3番の「良友ここに盟ひては」には、友との固い結びつきを感じ、「星霜三度刻苦して」には、粘り強く努力する姿を見ることが出来ます。すべてが、この4つの力に通じていると思うのです。

私は、この4つの力が教育の原点だと思いました。ここに本物の教育があると感じました。本校に奉職した4年間、そういう教育に出会い、教師として大きな喜びと満足を得ることができました。これも皆、膳所高校と同窓会の皆さまのお陰と心より感謝しています。本当にありがとうございました。

た。日々の授業への取り組み方を生徒が深く考えるよい機会になりました。講演を聞きながら、生徒が高い志を保ち、夢や目標を実現するためには、学校が学問のおもしろさに満ちあふれた場ではなく、それこそ我々教員の重要な仕事だと、改めて考えさせられた90分間でありました。

受験生から絶大な支持を受けておられる先生ならではの、論理的かつわかりやすいお話で、生徒たちは先輩からの力強いメッセージをしっかり受け止めてくれました。「あきらめなければ必ず道は切り開ける」、「変えていけるのは自分と未来であって、過去ではない」、「今を一生懸命頑張っていこうと思った」などの生徒の感想文の言葉が、心に響く講演会であったことを示しています。今年度も有意義な講演会であったことをご報告させていただきます。

# 校訓について

昭和25年旧大津高卒 高橋 勉

最近、校訓が「遵義力行」に変わっているのを知って愕然とした。もとの「至誠遵義、自主力行」という校訓は、旧膳所中学の校訓として昭和11年（一九三六）年に定められたものだが、膳所で学んだ者には四文字熟語のように記憶されていて、戦中戦後を問わず、人生の規範になってきた。この校訓は卒業生の誇りなのだ。それがなぜ変えられたのか。やるせないやら腹立たしいやら、複雑な気持ちである。

「どこまでも誠実に人の道にしたがい、何事も自主的に力を尽くして行う」という校訓から「至誠」と「自主」が消されて、なぜ「人の道にしたがい、力を尽くして行う」だけになってしまったのか。「至誠」と「自主」を消し去る理由がどうしてもわからない。単に、校訓を短く簡単にしようというだけなのだろうか。

個人的なことで恐縮だが、膳中の二年のとき終戦を迎えた私たちは、初めて経験する民主主義に戸惑いながら、生徒だけで議論し、試行錯誤をくり返して、二年がかりで生徒自治会の規約をつくりあげた。教師の介入を拒んだのは、べつに思想的な背景があったわけではなく、生徒に「自主」の校訓が徹底していたからだ。



書 大角光徹 昭和23年卒 正 大僧長 延壽山 比叡

さらにいえば、「草生す城は...」の旧膳中校歌には、一番から四番までの歌詞に「至誠」「遵義」「自主」「力行」の文言が織り込まれている。私たち世代の者はいまでもこの校歌を歌いつづけているが、「至誠」と「自主」が削られれば、折角の歌詞の根柢がなくなってしまう。それが私たちには何よりも淋しい。

以上を要するに、卒業生のなかに生きつづけている校訓を、明確な理由を示さずに変更することはやめていただきたい。時代を超えて人生の規範たり得るものとの校訓に改められることを切に望む次第である。

# 岡田節夫先生を偲んで

昭和34年卒 3年7組 板倉安正

恩師、岡田節夫先生は平成22年11月5日に享年84歳でお亡くなりになりました。

先生は膳所高校で多くの卒業生を世に送り出されましたが、私たち昭和34年卒の3年7組52名もその仲間に加えて頂いています。私たちのクラスは、理系志望ということで男ばかりのクラスでした。とにかく「やんちゃ」が多く、先生にはご迷惑ばかりをおかけしていたと思います。

どうしようもないやんちゃな生徒を先生は担任として導いてくださいました。今となれば「若さ」という言葉で赦されたいことではあると思いますが、授業中、実に勝手なことをしていましたし、教育自習に来た若い先生を泣かせました。後に、「お前ははさどうしようもない生徒やったな」とおっしゃった先生の言葉が全てを物語っているように思います。そのような生徒でもお蔭様で皆卒業できました。心から先生に感謝しています。どのようにご指導くださったのか、先生の教育の極意を今とっては伺いにくいことはできないのですが、生徒一人ひとりを丁寧に心を込めて育んでくださったのだらうと思います。お世話になった私たちの全てが、今も、先生をお慕いし、お教えを求めているのですから。

そのような先生の人間性のすばらしさと共に、私には先生の授業のうまさ、講義の楽しさが忘れられませ

ん。ご存知のように先生は地学の先生でした。関連で物理も教えておられましたが、地学の話しは面白かった。教科書の内容を超えて、先生の体験を踏まえた話の内容、鉱物、火山・造山、地震の話は臨場感があつて引き込まれました。学問的な興味をそそる話であり、同級生の波田重熙君はとうとうその分野で大学教授になりました。他にも学問を志した者もいます。が、恐らくこれは、岡田先生から研究をすることの楽しさを刷り込まれたからではないかと思っています。

このような思いもあつて、白倉一（故人）が音頭を取つて、先生を囲む会が作られました。あちこちの温泉をめぐる、美味しいお酒と食事と話しを楽しむ会です。先生と、楽しくお酒を飲みながら、いろいろな話に花を咲かせることができました。その折々に先生の私たちに對する暖かさを感じることができました。が、ひょっとすると、彼らはいつまでも面倒を見ていかないといい連中だという、先生の思いがあったのかもかもしれません。最後の旅になってしまいました。昨年10月にも奥様と共に奥飛騨温泉へ出掛けました。「この岩魚の骨酒は殊のほかうまいな」とおっしゃった言葉が今も耳に残っています。先生とお話ししたお酒が飲めたことを、今では、なつかしく思います。先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。（平成23年3月 記）



# 校歌の変遷について(二)

今号は昭和10年代の膳所中学から新制高校へ替わるまでを見てみます。

昭和10年に第五代校長として杉本一郎校長が就任された。このころから内外の情勢が厳しくなり、諸般に変革を余儀なくするようになり、学校の内外において次第に軍国調に移り変わっていききました。

昭和11年2月に時代の趨勢・流れに沿うべく、次の二句八字の校訓が四つの細目とともに定められました。

「至誠遵義」順量無私以テ忠孝ノ大義ヲ遵奉スベシ  
 公明正大ヲ旨トシ信義礼節ヲ尚(たつと)ブレシ  
 「自主力行」依頼心ヲ排シ自ら進ムテ事ニ当タルベシ  
 堅忍持久以テ心身ヲ鍛練スベシ

こうしたこともあり、校訓と校歌とが合致しなければならぬとして、最初の校歌から七年後の11年の開校記念日に新しい校歌が発表されました。

## 滋賀県立膳所中学校校歌

作詞 山田 有功(国語科)  
 作曲 寺村 周太郎(数学科)

一 草生す城は壑古れど 由緒たふとし遵義堂  
 いくその星は移るとも 先覚、範の微けく  
 いま斯の道に継ぎ立てば 男の児の衿新なり

二 学びの園に春されば 昔ながらの山櫻  
 挿頭す徽章輝かに 至誠の訓しさとさげもち  
 日に異に磨く若人の 日本精神を君見ずや

三 嵐に暮れて雪に明け 揺るがぬ永久の大  
 比叡 白銀映ゆる象にぞ 自主の教を仰ぎつつ  
 雄叫び登る七百の 石鹿健児意気高し

四 ああ青雲も向伏して 秋澄み渡る琵琶の水  
 流れは出でて絶間なみ 果て遙かなる  
 和田津海へ  
 帆綱手繰れば力行の わが朝発幸多し

歌詞は第一高等学校の寮歌のふしを頭に浮かべながらそのふしに合わせて歌えるよう、曲は力強く行進にも適するように作られたそうです。

第一節から四節の中に「至誠遵義 自主力行」が歌い込まれており、第一節は学校の歴史、第二節は学校の現在、第三・四節では将来の決意が読まれています。

さらに、第一節では石鹿城の夏が、第二節では春の校庭と「長等」の山櫻が、第三節では冬の比叡山が、第四節では秋の琵琶湖が読み込まれています。

杉本校長が、「人間の道徳上守るべき規則は最後の点では花が咲いたり散ったりする自然界の規則と一致するものだ。」と言われたように校訓は大自然の流れにも通うことを言外に託されたのです。

次に校歌は昭和12年に生徒定員が変わったことにより、第三節の「雄叫び登る七百の」が「雄叫び登る一千の」に三度目となる改訂が行われました。

昭和20年の我が国の敗戦により、軍国調は退潮し、校訓は次のように改訂されました。

至誠遵義 正しく素直に責務を果たそう 正しく明るく信義を尽くそう  
 自主力行 自ら進んで真理を拓こう 倦まずた撓まず天賦を磨こう

敗戦後、GHQは指令により義務教育を九年間に延長させ、いわゆる六・三・三・四年制を導入しました。(昭和21年四月から)

学制改革により、昭和23年に高等学校設置基準が制定され、新制高等学校が発足しましたが、以下は次号で。

## 膳所高等学校吹奏楽班OB会 第4回OB合同演奏会開催報告

膳所高校吹奏楽班OB会は、平成23年2月27日(日) 大津市民会館大ホールにて第4回OB合同演奏会を開催いたしました。

この演奏会も回を重ねるごとに参加者が増え、今回は昭和39年卒を筆頭に平成22年卒まで幅広い年代のOB総勢61名が演奏者として出演し、また当日には10名以上のOBがスタッフとして駆けつけ演奏会を支えてくれました。こうしてOB皆で一丸となり、455名のお客様をお迎えして今回の演奏会も成功裡に終えることが出来ました。

今回は「80年代の音風景」と題し、我が吹奏楽班で1980年代に演奏された曲を中心に当時のエピソードも交えて演奏しました。また第3部では現役生との合同演奏も披露。音楽と共に懐かしい思い出が甦ってきて、自分にもこんな素晴らしい青春時代とそれを共に過ごした仲間があったのだ、と参加者銘々があらためて認識するに至り、年代を超えたOB一



同の絆が深まる感動的な演奏会となりました。そして、演奏会終了後には聴衆として来場したOBも加わって、打ち上げを兼ねた親睦会を盛大に開催し、この日の感動を皆で分かち合いました。

この演奏会と親睦会を通じて得られる膳所高OBとしての誇り。この充実した気持ちを共有できる仲間をこれからも広げ続けて、いつか演奏会場をOBとその関係者で満員に出来る日がくれば、と願っております。最後になりましたがご来場下さいました皆様、この演奏会の開催にご尽力くださいました皆様に心から御礼を申し上げます。

昭和60年卒 巻下岳志  
 膳所高吹奏楽班OB会ホームページ  
<http://www.cable-net.ne.jp/user/yokota-m/zhob/>

## 膳所高卒業生 寄贈図書 「石鹿文庫」

著者名	書名・巻次(版次)
福本 知行 著	●法医学のツボとコツ 法令・判例読解指南書
木村 嘉勝 著	●OSHMS時代の安全衛生管理 ●エネルギー・環境・社会 現代技術社会論
京都大学大学院 エネルギー科学 研究所エネルギー ギア社会・環境 科学専攻 著	●現役東大生が書いた地頭を鍛える フェルミ推定ノート
東大ケーススタ ディー研究会 著	●情報を読む力、学問する心 ●日本人と裁判 歴史の中の庶民と司法
長尾 真 著	●人と生き物の地理 ●日本のシン垣 イノシシ・シカへの被害から田畑を守ってきた文化遺産
川嶋 四郎 著	●膳所
高橋 春成 著	●近江は日本歴史の舞台裏 二千年を通して見る近江の歴史
高橋 春成 編	●扇町さくら くアンモニア製造八十年の物語
坂田 自然 著	●膳所
近江の歴史を語る 会 発行	●膳所
河瀬文太郎 著	●膳所

卒業生文庫「石鹿文庫」へご寄贈を。  
 「石鹿文庫」は同窓生の著書を集めた文庫です。

# 絆 東日本大震災、 大津波義援金

平成23年3月11日午後2時46分発生した大地震、大津波は過去に日本が経験したことのない大災害となりました。

被災された方、犠牲になられた方にお見舞いのご冥福をお祈り申し上げます。

その惨状をテレビ、新聞報道で見て日本のみならず世界中の人々が支援の手を差し伸べています。

膳所高校同窓会でも検討の結果、皆様からお預かりした同窓会費の中から、3月31日あしなが育英会「あしなが東日本大震災・津波遺児募金」に、僅かですが取り敢えず義援金 20万円を送りました。

被害に遭われた同窓生、また既に現地に入って活動されている同窓生も居られるかも知れません。復興にはこれから長きに亘ると思われれます。日本には世界に誇れるやさしさと思われれます。今こそ日本の底力を示すときです。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

(同窓会 会長 浅田 幸作)

## 同窓会事業のご案内

- ◆第8回(平成23年度)クッキングセミナー
  - ・とき 平成23年8月25日(木)
  - ・ところ 大津プリンスホテル 2階「比叡」
  - ・参加費 四、〇〇〇円
  - ・内容 中華料理
    - ・夏バテを解消するスタミナ料理
  - ・定員 申込み順 先着20名
  - ・参加申し込みいただいた方には詳細を追って連絡いたします。
  - ・お申し込みは、同窓会事務局まで  
 TEL077・524・4295  
 又はFAX077・524・1732
- ◆第16回(平成23年度)ゴルフコンペ
  - ・とき 平成23年9月19日(月・祝)
  - ・ところ メイプルヒルズゴルフクラブ  
 甲賀市信楽町田代65  
 TEL0748-8213800
  - ・スタート時間 8時00分アウト・イン同時スタート
  - ・申込み切後各自あて集合時間及び組み合わせ表を追って通知します。
  - ・競技方法 ダブルベリア方式による18ホールストロークプレー
  - ・当日会費 一八、〇〇〇円(予定)
  - ・募集人数 但しメンバー・シニアは別料金  
 30組 120名
  - ・定員に達し次第第X切とします。



# 周年記念同窓会

## 70周年(膳中三八会)記念同窓会

(膳所中38回 昭和15年卒業)

太平洋戦争では、会員の殆ど全員が軍人として出征した。先陣は昭和17年5月8日の珊瑚海々戦で敵の艦隊に突入して自爆した「岸田清次郎一等飛行兵曹」で、2階級特進の恩典に浴した。学徒出陣の級友を含めて21名の会員が戦死されたのである。

戦後の三八会員は、各自が選んだ分野で、戦死した会員の分までもと、真摯な努力を積み重ねているうちに、米寿を迎えたのである。

昨年の三八会例会には出席者全員に「あみ定」から米寿祝いとして美しい花の植木一鉢ずつを贈呈していただき感謝した。

5年前のJUNGIIDOで報告したときの逝去者は88名であったが、5年後の現在、逝去者は21名増えて109名となり、生存者は37名となった。

今年も平成22年6月10日(木)、「あみ定」で70周年記念の同窓会を開催したが、会員から「膳中三八会の例会は生きるための目標になっているので今後も続けてほしい」という要望があったので、何とかして続けたいと思っている。(久保貞夫)



## 膳中三九会米寿総会

(膳所中39回 昭和16年卒業)

平成22年10月15日例年の三九回を「クサツエスタジオホテル」にて開催した。

参加者は関東からの2名を加えて12名と少数だが、会場は大いに盛り上がった。

当日級友の中村純二君(東京大学名誉教授)から送られた論説「日本文化の原点について」や、彼が参加した「ICX」に参加して日本南極観測隊の超高層物理観測(オーロラ観測)の他、「幻」の第2次南極



観測隊とタロ・ジロ(観測船がやむを得ず南極に残してきたが、翌年奇跡的に生き延びていた二匹のカラフト犬)の著述コピーを出席者に配り、改めて数々の彼の業績に感嘆した。

総会は膳中時代の思い出話から、熱中症で意識を失い救急車で運ばれたと、老人ならではの失敗話等で大賑わいだった。

最後に校歌「草生す城は」を合唱し、米寿祝いの記念品を手し、引き継ぐ二次会で来年の再会を期して散会した。(片岡重治郎)

## 65周年記念同窓会

(膳所中43回4年卒組・昭和20年卒業)

70周年・米寿を目指して... 来年も校歌を歌おう...

恒例のクラス会を昨年は10月18日(月)、栗津の対岸・萱野浦の「ロイヤルオークホテル」で開催し、36名の出席をえた。

5年前と同様「周年記念」を謳って案内したが、加齢には抗いがたく前年の39名を上回らなかった。実情を改めると、終戦前後の激動期に卒業した級友214名は、存命100名で82才。52名が体調不良で今回欠席。残る48名も出欠の別なく心身に何らかの不具合を抱えて昔日の活力を失いつつあり、「クラス会」がホーム・ストレッチに入ったことは疑いない。

現に、食事もソコソコに席を離れ、杯を交わして交歓・談笑で賑わうのが、今回は概してテーブル毎の懇談で終始した。

しかし、〇「ジツクリ」話し合う姿にフト漢文で習った「六十而耳順」が浮かび、長寿化して今や「八十」! 納得し、「老成」の証しと見たり。〇重忠を克服して久しぶりに出席したT君と入院先から抜け出してきたF君にわがクラス会の求心力の証しを見たり。〇大津男声リィダー・山元祐次君が指揮したフィナーレの校歌斉唱は、前奏で「老成」をかなぐり捨て、「草生す城は...」から膳



中少年に戻って会場を揺るがした等々クラス会が十分期待に込んでいるのが判かり安堵した。背筋を伸ばした級友を送り出して、改めて戦時中に苦労を共にした級友の絆の固さと、クラス会が心の拠り所であることを再確認し、京滋5地区の周りに持ち制にして今日迄30年近く整然と運営してきた「43・4卒会」が、聖火として譲り継がれることを念じた次第。今回も同窓会本部から周年祝金を給わり、完走に向けての激励として運営の資に充てさせて頂いた。御礼とご報告を申し上げます。(藤堂真弘)

## 四六会最終記念同窓会

(膳所中46回 旧膳所高卒業)

菊花、馥郁と薫る11月10日、「四六会」の最終回記念に母校に集合、「遊桜館」で多用の長時間を割いていただいた河原校長先生から、先輩方のご来訪を心から歓迎すると暖かいご挨拶を頂戴し、また辻教授先生から完全に生まれ変わった母校の今日に至るまでの変遷などご説明いただき、姿を消した「奉安殿」「生徒監」「銃器室」一銭博打で半数が立たされた「木造りの廊下」に昔日の思いをめぐらせ、暫し感無量の一時を過ごしました。校長先生、教頭先生の親切なご対応に紙上を借りて厚く感謝申し上げます。

バスにて琵琶湖ホテルへ移動、直行していた諸兄と合流50名が揃って記念撮影、比叡山延暦寺長徳大僧正、大角光徹君の先導で先づの106名を偲んで追悼の黙祷をささげたあと、牧君の音頭で乾杯、楽しく賑賑しい宴へうつり、初参加が最終回となった広島廿日市の松村君、一番遠い所から出席千葉美浜の西藤君の挨拶につづき、文化の日に瑞宝章を授勲した信州大学名誉教授の菅原君、10月に浄土宗の最高位、浄土門主、総本山知恩院門跡に就任した伊藤君を紹介、万雷の拍手で祝福しました。

宴たけなわのころ、当日がちょうど80回目の誕生日になった牧君、同じく11月生まれ勝田君を、コンパニオンが祝福のキス、正解者にキスをあげる母なる琵琶湖をめぐるクイズ、全員100円出しのポナラスジャンケン等を行い、嬉々として時間一杯、今、を楽しみ、最後のメはやっぱり声高らかに「草生す城は墟古れど由緒たふとし遵義堂いくその星は移るとも先覚範微くいま斯の道に継ぎ立てば男の児の衿新なり」

「嵐にくれて雪にあげゆるがぬ永遠の大比叡...」の大合唱。

この我らが校歌は毎年、春・夏、甲子園で聞くあまたの校歌より格段に素晴らしい、「詩」は歴史と校訓を包み、「曲」は若人の使命と息吹に満ちている、これに勝るものは先ずあるまいと誇りいっぱいだが、10年弱の短命であった



のは全く残念至極。今回は平成29年の「米寿の会」、いったん繰越会費を精算し膳所高同窓会に寄付することに全員が賛同、そして皆が7年先に帰ってくることを約して、名残を惜しみながら閉会しました。(今回の世話役は、西川、大角、牧、木下三、古川永、小島晴、でした。今回は「米寿の会」は大角君を中心に、元気な人が引き受けます)(小島晴雄)

## 60周年記念同窓会

(旧大津高1回 昭和25年卒業)

私たちは昭和19年に旧制の膳中、大津県女、大津市女、女子商業に入学生、男は軍事教練や開墾作業で、女は竹槍訓練や勤労奉仕でしぼられた同期生だ。男子生徒は二年になると軍需工場だった東レに動員されて爆撃を経験したが、その年の夏に終戦、時代は一変した。民主主義がどんなものかわからないまま、試行錯誤をくり返しながら、生徒自治会を立ち上げていったことが思い出される。

私たちの旧制中学・女学校での生活は四年までで、五年になる年に新制高校の二年に編入され、全国に先駆けて男女共学が実施された。男女七歳ニシテ席ヲ同ジウセズと教えられてきた私たちは、最初は戸惑ったが、すぐに違和感が解消し、友情や淡い恋心が芽生えたのはいうまでもない。

そんな仲間が、平成22年6月27日(日)高校卒業60周年記念同期会を開催した。会に先立って希望者(25名)だけで新校舎を参観。河原恵校長にご案内いただきながら、私たちが学んだころとすっかり様変わりした立派な校舎に目を奪われた。

記念同期会の会場は琵琶湖ホテル。出席者は男56名、女64名。来賓として河原校長と小笠原保信元校長にご臨席いただいた。会は同期の総会と懇親会の二部構成。総会の冒頭、板倉利光君が物故者(男86名、女80名)の霊に追悼のこたばを述べ、全員で黙祷を捧げる。続いて実行委員長の杉江周作君が開会の挨拶を、事務局長の大西元則君が経過報告を行い、しめくくりは奥野孝子さん。司会は三宅正信君が務めた。

後半の懇親会は、いままお失われぬ同期の絆を、酒を酌み交わしながら確認する場となった。妙に老け込んだが、壮年者のように元気旺盛な者など外見はさまざまだが、それぞれの表情にはかつての童顔が垣間見え、60年前の記憶が甦る。酔いがまわって歓談が進んだところで、丹波道明君の巧みな司会で、膳中、県女、市女の校歌を合唱する。ピアノ伴奏は後輩の橋本昭夫君だ。竹尾裕君





が「亡き馬場順平君に捧げる」と前置きして「琵琶湖周航の歌」を歌いはじめると、たちまち合唱の輪が広がる。あとは希望者が次々に壇上に上がって、自慢のノドを披露した。

その間も歓談が続き、話題に花が咲いたが、時間がたつのはあつという間だ。山本美須子さんが「卒業70周年の同期会にまた元気で再会しましょう」と、力強く閉宴の言葉を述べ、最後に岡角憲次君が先導して万歳三唱、盛會裡にこの日の集いは終わった。(高橋勉)

## 55周年記念同窓会

(大津東高3回 昭和30年卒業)

私達は昭和30年(1955)3月に卒業して早55年が経過しました。卒業生450名でしたがこの間に73名の方が物故者となりました。現在元気に日々を過ごしている私達は大変幸せと心から思っています。

平成22年5月19日(水)琵琶湖ホテルにおいて卒業55周年記念同窓会を開催しました。同窓会を開催するため幹事の皆様が無回か集まって準備をしていただき当日を迎えました。

当日午前11時に受付を始めました。久しぶりに会う同級生のなつかしい顔を見てお互いに元気な姿を確かめ合う人、初めて出席したという人等全員で101名の出席がありました。

その後出席者全員で記念撮影をし3年のときの組別のテーブルに着席をし、正午に司会者より開会宣言があつて、逍遙歌斉唱の後物故者となられた同級生のご冥福を祈り黙祷を捧げ、代表幹事の挨拶があつて食事タイムに入りました。全員で乾杯し食事をしつつ歓談の時となりました。時間を置かず各テーブルも急に賑やかになり、久しぶりに元気な顔を見て55年前の青春時代に戻って3年間共に過ごした色々な思い出を語り合い、また社会に出てから歩んだ人生の色々な事や現在の事についても語り合い今自分達が元気に過ごしている幸せを感じておられる方も多く見受けられました。まだまだ話し合う時間があればと思いつつ予定の時間となり今後も各自が健康に留意し元気に日々を過ごし次に会えることを確認し閉会となりました。

その後希望者だけの参加で二次会を持ち、そこでも楽しく過ごすことが出来ました。(広田康雄)

## 45周年記念同窓会

(膳所高13回 昭和40年卒業)

高校を巣立って早や45年、還暦もとづくに過ぎ去り60



台も半ばに差しかかり、第二の人生を歩み始めた同期生も増えてきました。半年余りの準備を経て平成22年9月4日に「卒業45周年同窓会」を琵琶湖ホテルに於いて開催いたしました。当日は御來賓として河原校長先生、恩師4名の先生方に御臨席いただき、同期生139名ともども、楽しくも有意義なひと時を過ごすことを得ました。



第一部の開会冒頭に物故者のスライド写真による紹介にあわせて黙祷を行いました。40年卒は、前後の学年に比して物故者の数が多く、極めて残念な事です。改めて志し半ばで亡くなられた同期生の御霊に哀悼の誠を捧げます。

第二部においては、同期生の中から数名に、第二の人生への思い、現在に生きがい、いま皆に伝えたいことを話してもらいました。仏像制作に生涯をかけて取り組んでおられる同期生の話は特に印象深く聞かせて頂きました。その後司会進行の池田君(いつの間にか演歌歌手の肩書きを持って頑張っています)の軽妙な司会で会場は大いに盛り上がりつつありました。続いて久保君、大林君の演奏に合わせて、懐かしい青春時代の歌を大きな声で合唱し、会場は益々ヒートアップしていきました。当然のごとく、二次会、三次会へと長い一日は流れてゆきました。

参加者の歓談の中で、いつの間にか「三二同窓会」とも云うべき小グループによる交流が盛んに行われていることも確認できました。これからも同期生同士の交流が益々盛んになることを願っています。

五年後の平成27年に「卒業50周年同窓会」を開催することを、後日開催した実行委員会で確認しております。同期生の全員が元気に再会できることを願って止みません。

最後になりましたが、同窓会当日に極めてお元気でいられた岡田節夫先生の訃報に、日を置かず接したことは、残念の極みです。先生の熱意あふれる御指導、長年のご厚誼に心より感謝申し上げます。(永味幸雄)

## 40周年記念同窓会

(膳所高19回 昭和46年卒業)

去る1月8日、昭和46年(第19回)に母校を卒業した同窓生、105名が全国津々浦々から湖畔の琵琶湖ホテルに集結した。なじみの顔ぶれから、卒業以来の再会となる懐かしい顔まで、40年の月日が瞬時に埋まる楽しい時間となった。同窓生は、ほとんどが現職で活躍中の年齢であり、遠方からの参加が危ぶまれたが、半年前に同窓会の予告通知を出していたこともあって100名を越す参加が得られたことにひとまず安堵した。

当日は、恩師である小笠原保信先生、大野富雄先生、

岡野正義先生がお元気な姿を見せていただき、周年同窓会に華を添えていただいた。会は、オーブニングセレモニーに続いて同窓生で京大出身の異色のピアニスト田所政人君がベートーベンの「月光」を披露してくれ、格調の高い幕開けとなった。また、歓談中はバックに高校時代に流行ったフォークやポップスが流れ、いやがうえにもムードは盛り上がり、アルコールでボルテージの上がった面々は、ステージ上でクラブ仲間や、各年のクラス仲間と記念写真におさまるなど最高潮に達した。



会もお開きが近づくと、誰からとなく次回の同窓会開催時期の話になり、5年後の開催では間が空きすぎるとの意見がもつぱらで、還暦開催も1つの選択肢として検討することを約し、当然のように予定に組み込む二次会組とまっすぐ帰宅組に分かれて散会した。

なお、後日の幹事会において還暦前の「お伊勢参り」のバス旅行計画が浮上、改めて皆さんに諮りたいと考えているところである。(水谷正)

## 35周年記念同窓会

(膳所高23回 昭和50年卒業)

2010年5月2日、琵琶湖湖畔「旅亭紅葉」で35周年の同窓会を開催した。高校を卒業して5年毎に開催する同窓会は今回で7回目になるが、大津市内の主だったホテルでほぼやり尽くしたので、35周年は、子供の頃よく遊びに行ったかつて「紅葉パラダイス」があった場所であるということとなり、結局、1次会から3次会まですべて「旅亭紅葉」の中の会場を押さえ、夜遅くまで、久しぶりに会う同窓生の笑顔を見ながら湖畔の昼夜を満喫した。

出席者は130名。今回は5年前30周年の時に比べて少なかつたなあ。それでも、初めて同窓会に参加してくれた友もけっこういて、6人の恩師とともに一献傾けながら、昔話に花を咲かせていた。

一次会では、今もなお各地で演奏活動をしているという同窓が奏でる清らかなクラリネットの音色に聴き入り、すっかりベテラン



の医者となった同窓には、これから年を取っていく我ががどんな養生をすべきなのかを教えてもらい、また、地域で子供の虐待を防止するためのNPO活動を行っている同窓の胸打つ話を聞いた。まだまだ50歳の半ば、みんながんばってやるんだね。

二次会は、恒例のじゃんけんゲーム。ひとり1000円を出し最後まで勝ち残った者が総取りするというハイリタンのゲームだが、その内半分を実行委員会に寄付してもらおうというもの。予算が足りない分、これで何とか埋め合わせしようとする我が実行委員会の魂胆もみんなすつかり慣れつつになってしまったようだ。

三次会もすぐ隣にあったカラオケボックスでギョウギウウ詰め合いながら高校当時流行った歌を合唱。35年前の若き姿に思い戻っていた。

同窓会の様子は、当時写真班に属し卒業後プロとなり今や地元では知名度の高い名カメラマンとなった辻村に、バチバチ写真に取ってもらいCDにして出席者に送った。

「月日は百代の過客にして、行かふ年も又旅人也」高校の頃誦んじた松尾芭蕉の「奥の細道」にあるように、月日というのは永遠に旅を続ける旅人であることを実感している。

さて、4年後の40周年はいつだどんな同窓会になるやら。楽しみである。(姜永根)

## 30周年記念同窓会&ゴルフコンペ

(膳所高28回 昭和55年卒業)

平成22年8月13日(金)、三重県のあるゴルフ場に、山本正史先生、山川悟先生をはじめ、計23名の有志が集まり、前日の豪雨とはうって変わって快晴と酷暑のもと、卒業30周年記念第28期生コンペディションが行われました。結果、Wペリアで4打のうち、10名が競い合うという接戦の中、見事後藤秀夫君が43・41、84で優勝を果たしました！今回が13回目にあたる中、初参加が8名もおり、大変な盛り上がりでした。



そして、翌14日(土)、琵琶湖ホテル瑞璃の間に、恩師の先生方10名、同窓生121名が集い、卒業30周年記念第28期生同窓会を行いました。稗方一司君、内藤香さんの司会で、瀧川順君の開会宣言で幕が上がりました。その後、志半ばにして逝った11名の仲間と、先生方のご冥福をお祈りし、黙祷を行いました。

続いて、学年主任をいただいた増井金典先生の来賓代表ご祝辞を賜り、そして布留川祐作先生の乾杯で催しに入りました。旧校舎のスライドショーを放映されるなか、参加者それぞれが旧交を深めていました。先生方への記念品贈呈



を行い、その後は、日本音楽界で活躍の羽田一郎君のステージショー。また先月、初婚で結婚した山村哲朗君や前日優勝の後藤君のスピーチで大いに盛り上がりました。そして、新校舎をはじめ、今の膳所高校を紹介したDVDの放映後、お開きとなりました。

5年ぶりの学年同窓会となりましたが、前回より参加者も増えました。参加者の一人から「人生の曲がり角にあり、会社や所属組織から、地域や生まれ故郷とのつながりに戻っていく時期かもしれません。いいタイミングだったと思います。」という言葉をもらいました。また、「30年ぶりの再会もあり、良い時間を過ごすことができました。今日から現実の厳しい日々に戻っています。何かリフレッシュできたようにも思います。」「やっぱり高校時代の同級生っていいもんですね。心身ともにフレッシュされ、不思議なパワーを貰った感じがです。」「今年のテーマは進化でした。アラフィフのみんな頑張りましたよ！」「結婚生活がこんなに楽しいものだと思わなかったのがとても新鮮でした。二世誕生頑張れよ。」なんていうお返事も。

同窓会って、いいもんです。よかったです。よかったです。よかったです。次回、必ず、35周年も、元気に必ず会ってパワーを分かち合おうよ！  
(布施健次)

## 25周年同窓会

(膳所高33回 昭和60年卒業)

この冬は寒さが厳しく年末には雪が降り当日の天候も心配されましたが、晴天となった平成23年1月2日琵琶湖ホテルに於いて昭和60年卒25周年同窓会が開催されました。

まず、ご出席いただいた恩師の須田武志先生、山本正史先生、大野富雄先生、向井了暢先生、森野邦彦先生、井上朱美先生から、人生の先輩としてのありがたなお話を伺い、まだまだご活躍されて居られる様子にも刺激を頂きました。

今回も同窓会開催にご尽力いただいた澤博史君の、奥様智子さんの軽妙な司会のもと、乾杯の後は、ほぼクラスごとの円卓で最初は美味しい食事をいただきながら懐かしい友達と近況を語り合い、そのうち食べる間も惜しんであちこちの見知った顔へと話の輪が広がり、会場はずっかり賑やかに学生時代に戻っていききました。

敬談途中には、現在母校で教鞭をとられている山田喜明君より映像を使って今の膳所高の様子を紹介していただきました。見違えるようにキレイになった校舎や、海外への修学旅行には、我々の時代との違いが愕然とし羨ましさも覚えました。が、いやいやあれはあれで良い思い出だったと自分の



時代に満足もしていません。いつもながら同窓会の3時間はあっという間に過ぎ、全員で校歌を歌い、恒例のメッセーじ集と集合写真のお土産をいただく散会となりました。

同窓会のご案内のお手伝いをさせていただきましたが微力のためお知らせできなかった同窓生の方も多く残念な思いもありました。ご転居等の際には膳所高校同窓会、または昭和60年卒同窓生ホームページ <http://groups.yahoo.co.jp/group/ze60/> に連絡先をお知らせいただき、次の機会にお会いできればと思います。  
(若山法子)

## 20周年同窓会

(膳所高38回 平成2年卒業)

平成23年1月2日、アルマーレに於いて卒業20周年の同窓会を開催しました。記録的な大雪に見舞われながら144名の出席者が集まりました。締切当初の予定者は37名であり、これが20年の重みなのかと感じていましたが各組の代表者等のお陰で多数の出席者が会する事が出来、幹事一同感激しました。そして何より喜んだのが9名もの恩師にご出席いただいた事です。



不惑を前に同窓会を開催する意味は大いだろうと予想していましたが、想像以上でした。年齢は30代の後半で組織や社会では働き盛り、又家庭では子育てや地域や教育での大きな役割を果たしている世代です。だからこそ少し後ろを振り返り、あの青春時代に一瞬タイムスリップする事が出来た意義は皆のこれ以上ない弾ける表情(笑顔)が証明してくれました。明日からの活力を与える栄養剤となったと思います。

一方で顔と名前が一致しない現実...。20年の歳月の長さからか当時の重みも感じながらも、心の底から楽しめるのも同窓会ならではと感じました。

同窓会は恩師のサプライズ登場から始まり、当時生徒会長の三日月君の乾杯の挨拶、そして名司会ぶりを発揮してくれた松田君手作りのスライドショー(写真が偏り過ぎたとの反省もあるが)、アクセントの利いた岡本(大垣)さんの進行、そして先生方の当時と変わらぬ挨拶等で大いに盛り上がりました。続いて母校新校舎見学ツアーと称し、現在母校で教鞭をとられる辻先生にご案内頂きました。120名以上参加し、一同に当時との変化に驚いていました。又今回、会場で撮った集合写真とスナップ

プ写真をCD化して参加者に送付致しました。ある同級生から「夢のような空間を創ってくれてありがとう。また頑張れよ。」とお礼の言葉をいただきました。幹事冥利に尽きる言葉で、開催してよかったですと改めて思いました。次回、5年を節目に開催していく事を誓い合いました。本当に膳所高は良い高校だと色々な意味で感じた一日となりました。  
(米倉崇)

## 5周年同窓会

(膳所高54回 平成18年卒業)

2011年1月2日卒業5周年記念同窓会を琵琶湖ホテル3階瑠璃の間にて開催しました。お正月という多忙な時期であることに加え、年末からの寒波で大雪が積もる中にも関わらず、200名を超える出席者が集まり、4名の恩師の方々にご臨席いただきました。



前回開催された同窓会は成人式の時であり、すでに3年の月日が流れていますが、なんとも不思議なもので顔を合わせればまるで高校時代に戻ったかのような錯覚に陥るほど、皆話が弾み、会が始まる前からロビーなどで盛り上がる姿が見られました。高校時代の思い出話や近況を話したり、写真を撮ったりしているうちに、あっという間に2時間がたち、一次会はお開きとなりました。

今回の同窓会で改めて高校時代の3年間がいかにかけがえないものであったかをひしひしと感じることができました。多感な青春時代を熱く共に過ごした友は本当に一生ものであり、数年に一度しか集まれなくてもすぐにまた高校時代に戻れる、すぐにつながれる。離れていても心のどこかでずっとながらいていける人生の友であると思えます。次回は5年後に卒10周年記念同窓会を開催する予定です。さらには皆それぞれの時を歩み多忙になっていくことと思いますが、次回も多くの方が参加してくださることを切に願います。

最後になりましたが、今回の同窓会の準備・運営に携わってくださった全ての方々に、そして同窓会幹事として一年間一緒に準備をしてきた中村くんに、心からお礼を申し上げます。  
(山下舞琴)

## 成人式同窓会

(膳所高57回 平成21年卒業)

2011年1月10日に、大津プリンスホテルにて成人式同窓会が行われました。今回の同窓会では、先生方も含め約360名の方が集まりました。裏を返せば100人弱の仲間たちと、成人を共に祝うことができた

かつた訳ですが、それでもこれだけの人数が集まる事ができたのは素晴らしいことだと思っております。

出席して下さった先生方からは私たちに向かって一言ずつ成人の祝福と激励のお言葉を頂くことができましたので、気持ち新たにこれからの一歩を踏み出せそうです。また会中では、有志と言うことで6人組の男女がステージでダンスを踊ってくれたり、大いに盛り上がる事ができました。これからは徐々に忙しくなってきた、同窓会の規模もここまで大きくならないかもしれませんが、とても良き思い出となりました。

思えば私たちの学年は新校舎設立の1年目から入った、特色入試やSSHになってから1年目の学年だったりと、様々な「新しい風」を取り入れた学年だったのではないかと感じます。そんな風を感じつつ、それぞれが自らの未来を切り拓いていけたらと思います。

最後になりましたが、この同窓会をするにあたって先生方や同窓会事務の方を始め、多くの方に協力していただきました。周りの支えに感謝するとともに、新成人一同これからを一層精進していきたく思います。(大槻晋士)

## 関東膳所高同窓会

●平成22年11月2日に、8年ぶりに東京にて開催、大学生11名を含む255名が参加。

関東膳所高同窓会は昭和3年に上野精養軒で開かれて以来、ほぼ継続して開催され、昭和63年には、「関東膳所高同窓会60年史」も出版されました。この60年史によると、膳所中学第一回生が明治36年に卒業して以来、第10回までの卒業生のうち関東進出者が21%もおられたことが記録にあり、大先輩諸氏の関東進出への気概を見ることが出来ます。

今回は、関東膳所高同窓会の会長清水健至さんのご健康の事情もあり、しばらく休会されていましたが、8年ぶりの開催をすることができ、新会長に長崎和夫さん(昭和37年卒、元毎日新聞社専務)が就任されました。

当日は、NHKアナウンサーの野村正育さんの司会で始まり、清水健至前会長、長崎和夫新会長、浅田幸作同窓会会長、辻雅也教頭、三日月大造衆議院議員が次々と挨拶された後、東京芸術大学ピアノ専攻4年生の西村静香さんのピアノ演奏、野村正育さんや東京大学2年の菅









第59回卒業式



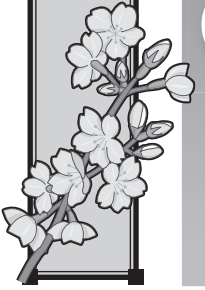
平成23年3月1日、肌寒さを感じる小雨模様のなか、本校体育館に於いて第59回卒業証書授与式が行われた。誇りと希望を胸に、普通科398名、理数科40名、計438名の生徒が、新たに膳所高等学校から旅立った。

式典は、浅田同窓会長をはじめ、今市同常任理事長、小西同総務部長、元校長の武原先生、大崎先生、父母教師の会の岩崎会長、小川副会長、田村副会長、また、成田県議会議員、小上青山中学校長を来賓に迎え、在校生（2年生全員、1年生各クラス代表2名）、教職員とともに、多くの保護者の出席のもと盛大に開催された。

卒業証書は、各クラスごとに担任が卒業生徒を呼名した後、河原恵校長からクラス代表に手渡された。河原校長は、式辞の中で、「校歌にも歌われている遵義力行の校訓の精神で、広い視野に立って自らの未来を切り開き社会に貢献して欲しい。」旨の言葉を述べられた。



その後、卒業生は、長尾咲紀さんのピアノ伴奏のもと全員で「旅立ちの日」を合唱し、吹奏楽班のいきものがかり「ありがとう」の演奏のなか、会場の皆さんの大きな拍手で見送られ会場をあとにした。



班活動報告

平成22年度班活動結果

報道部

- 放送班
全国高等学校総合文化祭
アナウンス部門 出場 奥山詩雨
第57回NHK杯全国高校放送コンテスト 全国大会
アナウンス部門準々決勝進出
奥山詩雨 辻愛美 榎本彩花 木村真奈
テレビドキュメント部門 準々決勝進出
作品名「膳所」
創作テレビドラマ部門 準々決勝進出
作品名「Smile with 友」

体育部

- 体育部 ポート班
第22回全国高等学校選抜ポート大会
出場 西村恵美

文化部

- 英語班
第4回全国高校生英語ディベート大会 出場
かるた班
全国高等学校総合文化祭
小倉百人一首部門 Aリーグ4位
全国高等学校小倉百人一首かるた選手権大会
団体戦の部 ベスト8
個人戦の部 B級4位 三嶋泰広
C級4位 三浦かの

男子

- 舵手付きクオドルプル 出場
ダブルスカル 出場

女子

- 第26回全国選抜ヨット選手権大会 出場
馬術班
全日本高等学校馬術競技大会 出場

第9回岐阜女子大学全国書道展

- 準大賞 河本真理子
第7回安芸全国書展高校生大会
書道美術館賞 藤本夢未 越村梓穂
第41回近江神宮全国献書大会
滋賀県知事賞 廣川冴

美術班

- 全国高等学校総合文化祭 出場
金盛郁子 油絵作品「十七歳」

物理地学班

- 第54回日本学生科学賞 文部科学大臣賞
全国高等学校総合文化祭 自然科学部門出場決定
自然科学部門出場決定

音楽班合唱部

- 第34回全国高等学校総合文化祭 合唱部門出場
文化連盟賞 受賞

弁論班

- 第15回全国中学・高校ディベート選手権
高校の部 ベスト8

編集後記

東日本大震災で犠牲・被害に遭われた方々に哀悼の意とお見舞いを申し上げます。今号編集の三月十一日に未曾有といわれる大震災が発生し、当初の記事を差し替え、この後記を書いています。十九日開催の同窓会理事会に於いて、開会に先立ち、犠牲となられた方々に黙祷を捧げました。理事会において、同窓会として支援していくことが決議されました。

サクサク! 主要大学合格者

Table with columns for university type (National, Public, Private), university name, and number of graduates. Includes entries like 北海道大 (4), 筑波大 (2), 東京大 (7), etc.

- 上野滋子 (東2) ・松村暢江 (膳10) ・山田 勲 (膳11)
東郷重明 (膳15) ・藤原陽子 (膳16) ・岡澤則子 (膳26)
堀井美香 (膳33) ・本山裕行 (総務) ・井上正雄 (総務)
小竹朋子 (総務)